

# 山田みやこの活動報告

令和元年11月17日(日)

## 「性暴力を考える講演会」に参加

《基調講演》

「家族の中で語られずにきた問題

～性虐待について考える～

会場 福祉プラザ

講師 信田 さよ子氏

(原宿カウンセリング長・臨床心理士・公認心理士)

開業心理相談機関を1995年に開設。医療機関ではなく、公認心理士・臨床心理士の女性スタッフ10名で対応。依存症・DV・虐待・ハラスメント・性暴力などの被害・加害を対象。個人カウンセリングとグループカウンセリングを実施。

相談員は常に被害者の立場に立つ。客観や中立という立ち位置では被害が不可視化してしまうため。

性虐待は他の主訴で来談中に付随的に語られたり、カウンセリング終了間際にこっそり語られたり、グループカウンセリングで思わず語られたり、突然フラッシュバック(想起)が起きたり、笑いながら冗談めかして語られたりするもの。援助者にも迷いや怯えが生じるが、引き受けるという覚悟で信頼されなければならない。性被害は精神科医療では抱えきれないこともあるので、連携(女性医師など)は必要だがあまり頼らないほうが良いこともある。事例が手本になる。

性虐待は力関係という視点から家族と捉えることが必要。もっと弱い存在の女の子(娘)の立場を忘れないこと。その視点から父・姉・兄を捉える。家族は力において不平等な人間が親子・夫婦の名のもとに暮らす集団で、それが顕在化したものがDVと虐待である。殺人事件の約半数が家族関係で起きている。しかし刑は非常に軽い。性暴力の法改正が来年ある予定。

性虐待はなかなか表に出にくく、特に父からの性虐待が多い。やっと言えるようになって、被害者には様々な問題行動が表れることもある。話すことで、蓋をしていたものが次々と出てきて苦しさが増したり、「性なる家族」という信田さんの最新の著書を紹介された。

令和元(2019)年度

## 性暴力を考える講演会

子どもへの性的虐待、顔見知りや頼しい人からの性被害など、性暴力は私たちの身近な地域や社会で起きています。誰もが尊重され安心して暮らせる性暴力のない社会を実現するために、私たちにできることを考えていきます。

**日時** 11/17(日)  
13時～16時30分(開場12時30分)

**会場** とちぎ福祉プラザ  
福祉研修室A・B 宇都宮市若草1-10-6



**プログラム**

第1部 基調講演 13:00～14:30  
**「家族の中で語られずにきた問題  
～性虐待について考える～」**  
講師 信田さよ子氏(原宿カウンセリングセンター所長 公認心理師 臨床心理士)

第2部 分科会 15:00～16:30 ※分科会1・2のいずれかを選択してください

分科会① 「DV被害者と子どもへの性的虐待 ～どんな支援を描けばいいか～」  
講師 宇治和子氏(常盤大学人間科学部准教授 公認心理師 臨床心理士)

分科会② 「とちぎ性暴力被害者サポートセンターから見える性暴力」  
講師 荻津守氏(栃木県済生会宇都宮病院地域連携課長)

参加者募集 150名 無料  
申込締切 令和元(2019)年  
11月8日(金)  
お申し込みは裏面をご覧ください



主催: 認定特定非営利活動法人ウイメンズハウスとちぎ  
本講演会は栃木県からの委託事業です

〈分科会〉

とちぎ性暴力被害者サポートセンター(とちエール)

から見える性暴力

講師 済生会宇都宮病院 地域連携課 荻津 守氏

とちエールの現状 平成27年7月1日～平成31年3月31日

- ・相談件数 713件/電話 539件・来所 176件
- ・被害者件数 283件 ・関係機関連絡 1,115件
- ・医療機関対応 705件 ・急性期医療 33件
- ・警察へ通報 17件 ・付添支援 63件

被害者年代

10代と10歳未満が半数、1人で複数の被害も多い。

被害状況

- 強姦性交等 約50%
- 強制的わいせつ 約20%
- 性虐待 約18%

加害者との関係

面識ある人からの被害が大半を占め、問題の奥深さと精神的な苦痛が大きい。また理解されない被害である。

今後の課題

- ・被害者は10代が多いため、学校・児童相談所・教育委員会・地域との密なる連携
- ・スクールカウンセリング、低学年からの性教育、性被害の長期支援
- ・子どもの精神科受診と治療できる体制の整備
- ・自殺に対する対応と治療
- ・SOSを出せない人への支援
- ・情報の届かない人への支援

※どんな相談が出来るのか相談窓口への理解を深め、パンフレットの配布も含め周知する活動が一層必要と感じた。

地道な活動から支援が広まることを願う。

**「あなたは、悪くない」と伝えたい**

とちエールは、性犯罪・性暴力被害にあわれた方を総合的に支援するための相談窓口です。ひとりで悩まず、あなたの気持ちを伝えてください。女性相談員があなたの声に耳を傾け必要な支援を行います。

**とちエールの業務の由来**

エールは声援、応援等を意味しますが、それ以外には翼という意味もあります。立ち止まらずに一歩踏み出すきっかけとなるような、現状から飛び立つ翼をイメージしています。

**とちエールのサービス など**

- ・24時間受付
- ・無料相談
- ・緊急対応
- ・法律相談
- ・医療機関連携
- ・警察連携
- ・警察へ通報
- ・付添支援
- ・生活支援

**とちぎ性暴力被害者支援センター(とちエール)の現状**

統計期間 27.7.1 - 31.3.31

相談件数 : 713件 電話 : 539件 来所 : 176件

被害者人数 : 283人 関係機関連絡 : 1115件

医療機関対応 : 705件 急性期医療 : 33件

警察へ通報 : 17件 付添支援 : 63件

**今後の活動**

- ・10代以下の被害者が多いため、性教育など早期予防教育活動の強化。
- ・児童期からの被害が多い、レイプ神話等の社会の偏見をなくす活動。
- ・自分を責める被害者の方も多いため、
- ・「あなたは悪くない」と継続発信。
- ・レイプラップやアダルトAV被害への予防啓発活動。
- ・性暴力被害者への就労支援。
- ・ひとりで悩んでいる被害者の方も多いため、相談支援窓口である「とちエール」の周知。